

「ほうじょう」コラム

令和4年6月17日

題 漁業調査指導船「ほうじょう」に配属されて

漁業調査指導船「ほうじょう」
航海士 長谷川 光

皆様、初めまして。令和4年4月1日付けで神奈川県水産技術センター相模湾試験場の漁業調査指導船「ほうじょう」に配属になりました長谷川光です。

私は、神奈川県立海洋科学高等学校（旧三崎水産高校）で3年間、水産業や航海業務のことを実習や授業で学んできました。その後、同校の専攻科に進学して2年間、様々な知識や技術をさらに習得してきました。



漁業調査指導船「ほうじょう」と私

漁業調査指導船「ほうじょう」は総トン数19トン、全長19.8mの小型船舶です。私たちはこの「ほうじょう」と、船外機船「はやかわ」を運航して様々な調査・研究の補助などを行っています。

今回は皆様に、当場に配属されてから2か月の間に経験した業務の一部を、画像とともにご紹介いたします。

江之浦沖でのカジメ増殖用務

当场では相模湾で発生している磯焼けの対策として、アワビなどのえさとなるカジメ増殖を行っています。

「はやかわ」を操船してカジメの増殖試験をしている江之浦沖に行き、カジメ生育状況調査の補助をしています。

「はやかわ」を操船する際は、常時適切な見張りをを行い安全第一で操船しています。

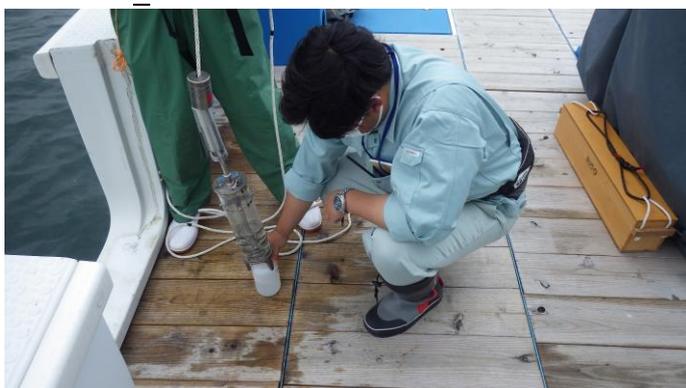


カジメの大きさを計測する補助

藤沢沖での貝毒プランクトン調査

貝毒プランクトン調査では、カキやハマグリなどの二枚貝を毒化させる貝毒プランクトンの出現状況を調査しています。

「ほうじょう」で藤沢沖に向かい、採水作業の補助をしています。また、採水の際は、採水器のロープがプロペラに巻き込まれないよう細心の注意を払って見張りを行っています。



採水した海水を調査用のボトルに移す

小田原沖での採水

小田原沖での採水では、水深200メートル以浅の海水中に含まれる栄養塩類や水質（水温、塩分、温度など）を調査しています。

「ほうじょう」で小田原沖に向かい、ワイヤーウインチを操作して水質計と採水器を測定水深まで設置させる等の調査補助をしています。

この調査では、潮流の影響を受けやすく、ワイヤーが流されてしまうことがあるため、ワイヤーの張りをよく見てウインチを操作しています。



採水器を降ろすためのワイヤーウインチ操作



定置網内に設置されたタイムラプスカメラの交換作業

定置網でのタイムラプスカメラ交換

当场では定置網を揚げる前に漁獲状況把握できるシステムの構築を目指して、漁業者さんと協力し送受波器（魚群探知機）とタイムラプスカメラを網の中に設置して、試験を行っています。

「はやかわ」を使って、定置網の中に設置されたタイムラプスカメラと送受波器の交換及びメンテナンスの補助を行っています。また、定置網の中で作業をする時は網を傷つけないよう細心の注意を払いながら作業をしています。



ブイに取り付けてある防食亜鉛板の交換作業

江之浦沖での海洋観測ブイメンテナンス

江之浦沖に設置したブイは、フジツボや海藻類などの付着物を除去しなければ、正確な流向流速データを得ることができなくなります。

「はやかわ」を使って定期的に観測ブイのメンテナンス作業をしています。また、これから海水温度が高くなる季節になると、ブイに付着物が多くなるため、メンテナンスの頻度を上げる必要があります。



船外機船「はやかわ」と私

私は水産技術センター相模湾試験場に配属されてから、日々様々な業務を経験しています。

今はまだ覚えることが多いですが、学んだ知識や技術を自分のものにする事で、県職員として、漁業者の方々や県民の皆様のご期待に添えるよう職務に励んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。